

前回に引き続き、昨年販売された雑誌に載っていた内容をお知らせします。

(PHPのびのび子育て 11月号(2019年) 株式会社 PHP研究所)  
2回目の今回は、「子どもの自己主張で言うとおりにしてもいい内容」をお知らせします。

## 子どもの自己主張で言うとおりにしてもいい内容

### ○ スキンシップを求めるとき

子どもは「だっこ」「おててつないで」などと親に甘えたがりますが、こうした行動は子どもにとっては必要なものです。

スキンシップをとおした甘えは、子どもの心を癒やし、安定感と情緒の安定をもたらします。活力の源となるものであり、子どもが世界と関わっていくための基本です。

「手が離せない」「疲れている」といった事情で受け入れにくい場合もあると思いますが、こんな形で親に訴えるのも、ほんの一時期。できる限り受け入れましょう。

### ○ 熱中しているとき

何かに集中していてなかなか遊びをやめないことがよくあります。

そのときに、ついドクドクと「どうしてやめないの」「早く」などと、せかしてしまいがちですが、子どもが何かに興味をもち、熱中できるのは大切なことです。集中力を養いたいというのは親の願いでもあるでしょう。

ただし、今の子どもは長時間ゲームなどにはまり込んでしまうこともあります。前もって子どもと時間の約束をして、その間だけは黙って集中させておくようにするといいでしょう。

### ○ 挑戦したがる

幼児期には、大人のまねをして刃物を使うなど、まだまだ難しそうなことに挑戦したがりします。

そんなときは、子ども用のハサミを与える、包丁の使い方を教えるなどの配慮をしながら挑戦させてみましょう。「それは無理」などと先回りをして、やる気をくじかないようにします。

うまくいかずに「自分はだめだ」と、落ち込んでしまったときには「もう少しでできるよ」「こうやってみたら」と励まし、結果の悪さや子どもの未熟さを批判しないようにしてください。